

福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

社会福祉法人 あらぐさ会
笹下保育園

平成30年 1月 29日

株式会社フィールズ

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構 認証第6号

目次

評価結果総括

■ 評価方法	1
■ 総合評価	2
■ 評価領域ごとの特記事項	5
人権の尊重	
意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供	
サービスマネジメントシステムの確立	
地域との交流、連携	
運営上の透明性の確保と継続性	
職員の資質向上	

分類別評価結果

■ 利用者本人（子ども本人）の尊重	8
■ サービスの実施内容	11
■ 地域支援機能	15
■ 開かれた運営	16
■ 人材育成、援助技術の向上	17
■ 経営管理	18

利用者本人調査

■ 利用者本人調査結果	20
-------------	----

家族アンケート結果

■ アンケートの概要	25
■ アンケート結果	26

事業者コメント

■ 事業者からのコメント	31
--------------	----

評価結果総括

法人名 社会福祉法人あらぐさ会
事業所名 笹下保育園
施設長名 五十嵐 樹

□ 評価方法

自己評価方法

実施期間 平成 29 年 8 月 1 日～平成 29 年 11 月 15 日
実施方法 全職員が合議して自己評価を実施し、施設としてまとめた。

評価調査員による評価方法

実施日 平成 29 年 12 月 19 日、平成 29 年 12 月 26 日
実施方法 評価調査員が訪問し、施設の見学、資料確認及びヒアリング等で実施した。

利用者家族アンケート実施方法

実施期間 平成 29 年 10 月 23 日～平成 29 年 11 月 19 日
実施方法 施設から利用者家族へ配布し、返送は直接家族より評価機関に郵送してもらった。

利用者本人調査方法

実施日 平成 29 年 12 月 19 日、平成 29 年 12 月 26 日
実施方法 訪問調査時に保育見学、食事や活動場면을観察して行った。

□ 総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

〔施設の概要〕

笹下保育園は、横浜市営地下鉄「港南中央」駅から徒歩7分程のところにあります。園は港南区の桜の名所である桜道の坂沿いの住宅街の中に位置し、近隣には桜道コミュニティハウス、港南区役所、港南中央地域ケアプラザなど公共施設があります。

笹下保育園は横浜市の公立保育園から平成27年4月に民間移管され社会福祉法人あらぐさ会が運営を引き継いでいます。移管前からの地域になじみのある保育を大切にし、平成29年度からは一時保育などを開始して保護者を支援しています。園庭開放は毎日実施し、月曜日にはリトミックも実施しています。

運営法人である社会福祉法人あらぐさ会は「働く事と子育て」の両方を大切にしたいという願いから始まりました。法人の保育理念、方針の下、園の保育目標「自分で考えて行動する子」「友だちと一緒に遊ぶ子」「豊かな感性を持つ子」を掲げ保育事業を展開しています。

《優れている点》

1. 子どもと保護者を大切にした運営を実践しています

幼い子どもにとって、保護者と離れて過ごす時間を精神的・肉体的に支える保育を重視しています。延長保育は20:00（土曜日は18:30）まで対応して保護者を支援しています。長時間にわたり園にいる子どもたちの事を考えて、おやつなどへの配慮を行っています。延長保育にクラス担任が入る事で、お迎えの時に保護者と話ができています。お迎えの時間が遅れた時には、保護者の状況を考慮して延長料金への配慮や、当日の補食提供にも柔軟に対応しています。園では常に保護者の置かれている状況や、気持ちにも寄り添い対応をしています。平成29年度からは一時保育を開始し、さらに土曜保育に給食を実施して働く保護者のサポートに努めています。

子どもに対しては、個々の思いを大切に子どもの気持ちに寄り添った言葉かけを行い、コミュニケーションやスキンシップを通して信頼関係を構築しています。子どもの個性・特徴を尊重し、「～ができない」ではなく「～ができる」という視点で子どもに接しており、子どもを急かしたりすることはありません。子どもたちは、のびのびと元気に園生活を楽しんでいます。

子どもが楽しく園で過ごせていることは、保護者が安心して園に子どもを預けられ、安心して仕事ができる支援になっています。

2. 地域交流の中で保育士という仕事を紹介しています

近隣にある笹下中学校に職業講和講師として園長が招かれ、保育士の仕事についての紹介をしています。中学校のキャリア教育「人生の先輩から話を聞いて、将来の生き方を考えるための機会」「職業に対する理解を深める」「卒業後社会人としてのマナーを身につける事」のために話をしています。

中学生には将来保育士になりたい学生もいて、保育士の仕事の内容や難しさ、喜び、やりがいなどについて、保育でのエピソードなどを交えて話をしています。

保育士という職業を知ってもらい、今後必要とされる、将来の保育を担う保育者の育成につなげています。

3. 保護者との連携を大切にしています

公立から民間に移管する際に横浜市・保護者・園との三者協議で十分な意見交換を行い、保護者と園の二者協議が続けられ、多くの成果を上げています。

園は職員と保護者間の情報交換で、最も重要なものが、朝夕に交換される直接の会話と考えています。今日の出来事・子どもの様子は保護者にとって関心が高く、お迎え時には可能な限り伝えるよう努めています。昼間の担任が直接お話しできない場合は、クラスの「申し送り票」に報告事項を記入して、お迎え時に保護者に報告することを徹底しています。

保護者から個別に相談を受けた場合には、児童票ファイルに綴りこまれた専用メモに、日付と相談を受けた内容、対応したことを記録し、時系列を追って記載しています。一人の子どもに関してどんな動きがあり、悩みがあり、どんな方法で解決に向かったか読み取ることができるよう工夫しています。

《課題や改善することが期待される事項》

1. 園としての計画的な主任クラスの育成への取組みが期待されます

園は開設 3 年目ということもあり、主任クラスの育成にまでは至っていない状況です。法人全体としては主任クラスの育成がされ研修参加等も行われていますので、今後園としての主任クラス育成プログラムに則った育成が期待されます。

□ 評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重

- ① 法人の保育理念は、「私たちは、憲法と児童福祉法に基づき、子どもたちがすこやかに育つ権利を守り、保護者と力を合わせてより良い保育を進めていきます」などと人権を尊重したものとなっています。保育方針に「子どもの発達に見合った生活の中で、人への信頼感を育て情緒の安定を図ります。」保育目標に「自分で考えて行動する子」などを明記しています。法人の式典を開催し、記念誌、式典を通じて理念を関係者に周知しています。保育理念、保育目標は玄関にも掲示して保護者に周知しています。
- ② 職員は、子どもの気持ちに配慮して、子どもの人格を考えて接することを基本に考えています。職員は横浜市が実施する人権についての講座を受講して理解を図っています。職員の対応については周囲の職員や主任、園長が言葉をかけており、職員会議でも気がついたことを話し合っています。子どもの不適切な行為を注意する時なども、否定するだけではなく、気持ちに寄り添いながら子どもが納得するようにして支援しています。
- ③ 個人情報について、ボランティアや実習生にも受け入れ時にマニュアルに沿って確認を取っています。保護者には、「個人情報保護法」として個人情報の取り扱いについて説明し了解を得ています。職員は、就業規則、サービス規程に記載されている、個人情報の取り扱いや守秘義務の重要性について周知しています。

2. 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ① 保育課程は保育方針、保育目標に沿って、子どもの最善の利益を第一に考えています。保護者が安心して働けるように延長保育などの配慮を行っています。保育課程は移管園ということで公立の保育を引き継ぐ形となっています。保育課程は全職員と協力して作成し、入園説明会の折に保護者に配付して説明しています。
- ② 保育課程に基づき、年間指導計画、月間指導計画を作成しています。月間指導計画では子どもの発達に合わせて作成し、一人一人の子どもに柔軟に対応しています。週案は子どもたちの興味、関心などをクラスごとに話し合い微調整をして、子どもの「～したい」という気持ちを大切にしながら柔軟性を持たせています。
- ③ 0～2歳児は個別指導計画を作成しています。3～5歳児クラスでは配慮の必要な子どもや気になる子どもについても情報を共有したうえで、個別に月間指導計画を立てています。子どもの状況変化に関しても報告し合い、全職員で情報を共有し、計画の見直しを行っています。個人差のある離乳食の進め方、トイレトレーニングについては、一人一人の発達状況を送迎時や連絡帳などを通して保護者と相談しながら進めています。

3. サービスマネジメントシステムの確立

- ① 新入園児の慣れ保育については「入園のしおり」に記載し、入園説明会の中で保護者に説明しています。年齢や子どもの状況、保護者の就労に合わせて相談し保育を進めています。保護者とは連絡帳や送迎時の会話を通して子どもの様子を毎日詳しく報告し合い、子どもの生活が家庭と園で無理なく連携できるようにしています。進級時にはクラス担任の一人が持ち上がり、引き継ぎを進めています。
- ② 職員は指導計画の自己評価欄を活用し、評価、見直しを行っています。他のクラスからの再評価や見直しをして子どもの発達や状況を正確にとらえるようにしています。保護者との情報共有を大切にして、園でのその子のエピソードや全体での様子を伝えるなど保護者とのコミュニケーションを大切にしています。職員は常に保護者の思いを把握し、懇談会や入園説明会でも意見を募っています。連絡帳や日常の会話などから、保護者の要望、意見を把握し、改定の際に反映させています。
- ③ 食物アレルギーのある子どもについては、横浜市のマニュアルに沿って、アレルギー疾患生活管理指導表を提出してもらい、栄養士や担任が面接し対応しています。職員は横浜市の研修などに参加し、アレルギーに関する最新の知識と技術を学び、研修受講後には報告書を作成して全職員に回覧し、職員会議で研修内容を共有しています。アレルギー除去食を提供する際にはアレルギーになる食品ごとで食器の色が決まっています。専用食器を使用し、誰でも区別できるようにしています。

4. 地域との交流・連携

- ① 園の見学希望は年間を通じて受け付けています。園の大きな行事と重ならなければ、できるだけ希望に沿ってお受けしています。説明は、園長ないし主任が担当し、パンフレットを中心にして、ご案内しています。同時に園が行っている育児相談など、子育て地域支援についても情報をお伝えしています。
- ② 地域の子育て支援ニーズの把握に向けて種々対策を講じています。港南区のネットワーク専任保育士とも連携して、園として地域の子育て支援を行っています。一時保育、園庭開放、園の育児講座を開催しています。園見学者へのPRを強化して、ニーズの把握に取り組んでいます。
- ③ 園の玄関の外側に、地域に向けての掲示板を設けて、情報提供を行っています。園内には港南区マップをはじめ、関連する行事などのパンフレットを置いて参加を呼び掛けています。園としての独自の情報発信としては、園庭開放・交流保育・育児講座「あそびにきてね」や園児の祖父母をお招きして「お月見の会」を開催して地域の方々とのふれあい、園のPRを行っています。

5. 運営上の透明性の確保と継続性

- ① 指導計画に保育方針が反映されるようにし、自己評価、反省などは毎月の指導計画会議で話し合い、改善をして次の計画に反映させています。職員一人一人の評価については、71項目のチェックシートを実施し、その結果をホームページに公表しています。これらを集約させたものを園の自己評価としています。

- ② 子どもの製作をするときに裏紙や牛乳パックなどを利用して、リサイクルに取り組んでいます。ゴーヤなどのグリーンカーテンを実施しています。「環境教育指導計画」を作成して環境への取り組みを明文化しています。港南区資源循環局の協力による「かるがも教室」「紙すき体験」や公園愛好会の長寿会の指導でひまわりの種まきをして、公園環境の整備活動に参加するなど取り組みを行っています。
- ③ 園では、事業運営に関する情報を港南区や外部の保育団体から情報を収集し分析しています。さらに、法人の社労士、会計士からも新しい情報を得ています。職員会議では指導計画会議を行い、園の課題や改善点を見つけています。リーダー会議も行い、改善・周知・事業展開について園全体で取り組んでいます。

6. 職員の資質向上の促進

- ① 指導計画を毎月指導計画会議でクラスごとに成長や発達、子どもの変化などのついてを話し合い、翌月の目標や計画を見直しています。園内外の良い事例をもとに保育内容を改善しています。日常の保育の振り返りを行う一つとして、よこはま港南地域療育センターの巡回指導から気になる子どもについての保育の評価や指導を受け、子どものサポートの仕方などについて指導を受けています。
- ② 園では運営規程に経験や能力に応じた「事務分掌」を作り、キャリアシートに在席年数に応じた保育士として求められる期待水準を明文化しています。キャリアシートには自分のキャリアに必要な9つの研修の受講回数がレーダーチャートにわかりやすく書かれています。客観的に自分の状況を見て、新年度の目標、課題、必要を記載して園長と面接をしています。日常の業務は各保育士に権限を委譲し日常の保育は職員に権限が委譲されています。園長は、面接や職員会議、日常的な会話などから職員からの改善提案や意見、職員意向調査を実施しています。

分類別評価結果（および理由）

※ ひょう太マークは各項目において下記の水準をあらわしています。また、各項目ごとにひょう太の数の理由のコメントがあります
 3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

I 利用者本人の尊重

I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成



- ① 法人の保育理念は、「私たちは、憲法と児童福祉法に基づき、子どもたちがすこやかに育つ権利を守り、保護者と力を合わせてより良い保育を進めてゆきます」「私たちは、子どもがのびのびと生活し登園が楽しくなるような魅力ある保育園づくりを目指します」「私たちは働いているお父さん、お母さんが安心して働けるように支援し、地域の子育てに貢献します」とあります。保育目標は「自分で考えて行動する子」「友だちと一緒に遊ぶ子」「豊かな感性を持つ子」とあります。昨年は法人設立 50 周年の式典が行われ、記念誌、式典を通じて理念を周知しています。保育理念、保育目標は玄関に掲示され保護者にも周知されています。
- ② 保育課程は保育方針、保育目標に沿って、子どもの最前の利益を第一に考え、また地域の実態なども考慮して作成されています。保育課程は移管園ということで公立の保育を引き継ぐ形となっています。そして、この保育課程もとに、園長が自園に合ったたき台を提案し全職員にアンケートで意見を募っています。保育課程は入園説明会の折に説明し保護者に配付しています。
- ③ 保育課程に基づき、年間指導計画、月間指導計画を作成しています。月間指導計画の配慮事項欄には、子どもの発達に合わせて、気をつけて対応していく内容を記載し一人一人の子どもに柔軟に対応しています。さらに、0～2 歳児では個別指導計画を作成しています。週案は子どもたちの興味、関心などをクラスごとに話し合い微調整をして、子どもの「～したい」という気持ちを大切に柔軟性を持たせています。異年齢の活動計画も作成され、異年齢で関わる事で思いやり、あこがれなど子どもの心の成長を育む事や、社会的なルールを園の活動の中で自然に子どもたちに伝えています。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- ① 入園にあたり、入園説明会を開催し「入園のしおり」に沿って説明をしています。説明会当日に職員が保護者と面接をして、入園までの子どもの成育歴とともに、子どもの様子も確認しています。面接内容は面接記入用紙に記録し、子どもの様子とあわせて職員会議で報告し共有しています。職員会議で個々の発達状況について報告し、話をして全職員で把握するようにしています。
- ② 新入園児の短縮保育(ならし保育)については「入園のしおり」(重要事項説明書)に記載し、入園説明会の中で保護者に説明しています。年齢や、子どもの状況、また保護者の就労に合わせて相談し保育を進めています。自宅で使用しているタオル、ぬいぐるみなど子どもの心の拠りどころとなる物の持ち込みにも対応しています。保護者とは連絡帳(園で一部分を保管するタイプ)や、送迎時の会話を通して子どもの様子を毎日詳しく報告し合い、子どもの生活が家庭と園で連携できるようにしています。進級時にはクラス担任のうちできる限り一人が持ち上がり、引き継ぎを進めています。

- ③ 職員は指導計画の自己評価欄を活用し、評価、見直しを行っています。他のクラスからのアドバイスをもらうなどして、再評価や見直しをして子どもの発達や状況を正確にとらえるようにしています。保護者との情報共有を大切にして、送迎時にはクラス活動の様子や個々のエピソードを伝えるなど日ごろから保護者とのコミュニケーションを大切にしていきます。職員は常に保護者の思いの把握に努め、懇談会や入園説明会でも意見を募っています。連絡帳や日常の会話などから、保護者の要望、意見を把握し可能な限り反映させるよう検討しています。

I-3 快適な施設環境の確保



- ① 園内は用務員、保育士により掃除が行き届き清潔に保たれています。保育室はマニュアルに沿って掃除や消毒を行っています。窓は広く、採光は十分です。園内の換気は、散歩に出かけている時や、子どもたちが室内で運動した後や、においを感じたときなども行っています。保育室にはエアコン、加湿器を設置し温度や湿度の管理は、季節ごとに基準を決め、温度等は日誌に記載しています。音楽の音量や職員の声の大きさに配慮し、さらに週案によってお互いのクラス活動内容を確認して音への配慮をしています。
- ② 0歳児の沐浴室は清潔感があり明るい色調になっています。園内3か所に温水シャワーの設備があります。夏の間は散歩のあと、外遊びなど汗をかいている時にシャワーを浴び、あせもの予防など、子どもたちの皮膚の清潔を保てるようにしています。シャワー室は衛生管理マニュアルに沿って使用するとともに消毒し常に清潔な状態を保っています。
- ③ 0歳児の部屋は低い高さの棚を設置して、子どもたちは活動に応じて場所を移動しています。1歳の低月齢児は0歳児の部屋で活動をして、子どもの発達の状況に応じて活動のしやすいクラス入っています。1～5歳児の保育室はそれぞれ用途に合わせ、敷物を用意したり、パーテーションや低い棚やままごとセットを設置するなどして、子どもが好きな遊びに集中でき、落ち着ける空間を作り出しています。部屋は食事、睡眠、それぞれのスペースを工夫して作っています。午睡時にはカーテンを引いて適度な暗さに調整し、眠りに入りやすい快適な環境を整えています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ① 0～2歳児は個別指導計画を作成しています。3～5歳児では、配慮の必要な子どもや気になる子どもについては、かかわる職員が情報を共有したうえで、個別に月間指導計画を立てています。保護者とも必要に応じ個別に面談を行って保護者の要望を入れて指導計画を作成し、重要部分はきちんと保護者に説明しています。毎月のミーティングでは、子どもの発達、保育目標を話し合っています。子どもの状況変化に関しても報告し合い、全職員で情報を共有し、計画の見直しを行っています。個人差のある離乳食の進め方、トイレトレーニングについては、一人一人の発達状況を送迎時や連絡帳などを通して保護者と相談しながら進めています。
- ② 保育所児童保育要録は担任が記入し、主任、園長が確認し小学校に送付しています。入園時には保護者から提出された児童票をもとに個人記録を作成しファイルしています。子どもの成長が具体的にわかるように、保育経過記録を月齢に合わせて確認し記録しています。保育経過記録や児童票などの個別の記録は、全職員が情報共有できるようにしています。基本的に担任は持ちあがりですが、進級時の重要な申し送り事項などで業務を引き継ぐ際には、クラスごとの引き継ぎシートにクラス全体の様子、保護者の様子など、また、必要に応じて個別に前のクラスでの様子、発達について、その子どもの特徴などを記載しています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ① 園では積極的に配慮を要する子どもを受け入れる姿勢があり、職員は毎年、横浜市やよこはま港南地域療育センターなどが主催する研修を積極的に受講しています。研修後は研修報告を行い、情報を職員間で共有しています。配慮を必要とする子どもの受け入れに際し、個別のケースについては、指導計画について話し合うほか、園長や主任、担任が保護者と個人面談を行っています。なお、対象となる子どもには、「個別支援計画」を作成しています。なお、よこはま港南地域療育センターの巡回相談の記録や各種会議の記録、指導計画などは、職員が必要に応じていつでも閲覧できるようにファイリングされ、職員室のロッカーに保管されています。
- ② 「虐待防止対応マニュアル」があり、虐待が重大な人権侵害であることを職員全員が認識しています。さらに、人権の研修に参加し内容を周知しています。職員は、虐待の早期発見に努め、虐待を疑われるケースが見られた場合には、地域の関係機関（港南区こども家庭支援課等）ケースワーカー、保健師に相談する体制が整っています。子どもや家庭に気になることがあれば随時連絡する体制があります。職員は子どもたちの朝の視診に力を入れ、不審なげやあざ、やけどなどに注意しています。日誌の健康観察欄、受け入れ票、看護日誌にも子どもの視診などで気がついたことを記載し情報を共有しています。保育士は送迎時に保護者と会話を交わす中で、親子の関係や子どもの表情の変化から家庭の状況把握に努めています。
- ③ 食物アレルギーのある子どもについては、横浜市の「保育所における食物アレルギー対応マニュアル」に沿って、「アレルギー疾患生活管理指導表」を提出してもらい、それに沿って栄養士や担任が面接し対応しています。アレルギー除去食を提供する際にはアレルゲンになる食品ごとで食器の色が決まっています。専用食器を使用し誤食防止に努めています。月1回、献立表について保護者に確認してもらい、栄養士、担任とアレルギーの状況や変化を話し合っています。0歳児は看護師がアレルギー児の食事のサポートに入っています。
- ④ 園には外国にルーツのある子どもが在籍することもあります。それぞれの国の生活習慣や考え方の違いなど、そのままを尊重しています。今までの受け入れで宗教食の対応を実施しました。日本語での意思疎通が困難な場合には、横浜市の通訳ボランティアや国際交流協会に通訳を依頼する体制があります。園では、子どもたちに食を通じて色々な国を知ってもらうために世界の料理を定期的に提供し、その国の国旗なども紹介しています。

I-6 苦情解決体制



- ① 苦情受け付け担当者は主任、苦情対応責任者は園長です。さらに、他機関の苦情解決窓口として横浜市調整委員会などの連絡先を掲示しています。保護者にはご意見箱を設置し、行事の後にアンケートを実施して、意見や要望を把握しています。日々のかかわりの中で信頼関係を築き、保護者が話しやすい雰囲気作りを心がけています。自分の要求を十分に表現できない子どもには、しぐさや表情から、意思を汲み取るよう努めています。
- ② 苦情や意見、要望などに対する「苦情解決マニュアル」があり、保護者から苦情や要望などが寄せられた場合には、マニュアルで定めた方法に沿って解決策を検討し、改善を図るなどしています。また、保護者から要望や苦情があった場合には、必要に応じて外部の第三者委員を交えて対応するしくみができています。保護者からの要望、苦情については、速やかにクラスミーティングや職員会議などで全職員に伝達し、問題があったときは、職員会議で解決策を検討しています。寄せられた内容は「苦情解決ファイル」としてファイルにとじて閲覧できるようにして、過去の苦情相談を蓄積、検討し役立てています。また、苦情に至らない事でも職員で共有し、職員自身の気付きとなるように意識しています。

Ⅱ サービスの実施内容

Ⅱ-1 保育内容【遊び】



- ① おもちゃ類は、発達の時期や季節に合わせて、子どもにふさわしい安全な遊具を出しています。年齢によってパズルや、木の板状の積み木など子どもの興味に合わせて選択できるよう、自分で取り出しやすいところに置かれています。パーテーション、机などを利用して、子どもたちが集中できるスペースを作っています。登園後、各クラスで集まるまでの間や、午後の時間、活動の合間は、自由に遊べる時間となっています。
- ② 子どもの発想を大切に受け止め、集団活動に取り入れています。おたのしみ会では子ども自身が自分たちで読んだ本の中から題材を決めて、一人の子どもの発言が劇に発展する事もあり、子どもたちの興味を指導計画に取り入れています。日中の園庭での遊びなど一斉活動の中でも、どのようにして遊ぶか内容やルールなどは子どもたちが決めています。自由遊びでは、お絵かき、折り紙、ブロックなどの遊びを個々に楽しんでいます。職員は子どもたちの自由な発想を大切に、必要に応じて小物を用意して、ルールを提案するなどして、子どもたちの発想がさらに広がるように援助をしています。
- ③ 夏には、パプリカ、キュウリ、ナス、枝豆、オクラなどの夏野菜を栽培しています。野菜の生育の様子を絵に描いたり、オクラは切り口を生かしてスタンプ楽しんだりを給食で食べるなどして収穫の喜びを共有しています。カタツムリを飼い、給食の残り野菜をもらって飼育をしています。食べる野菜によって便の色が変わるなど子どもたちに興味に、給食の職員も協力をしています。日常的に近隣の公園に散歩にでかけています。散歩では行き交う人に保育士が率先して挨拶をすることで、子どもたちも挨拶ができています。2月には3つの保育園が集まり、自分たちで栽培した米を炊いて自分たちでおにぎりを握って公園に行き交流をします。その時は子どもが通う学校ごとにチームを作りドッジボール大会をしています。
- ④ 0歳児からリトミックを実施し、全身を使ってリズムや、音の強弱などを音楽に合わせて表現しています。3～5歳児は自由画帳を自分で持っています。5歳からはお道具箱があり、自分で備品の管理をするようにしています。こいのぼり、七夕、お月見、クリスマスなど、季節や行事に合わせて、作品作りを楽しんでいます。訪問時、ひよこぐみには子どもの足型をトナカイの顔にした製作とツリー、それぞれのクラスごとにクリスマスにちなんだ、リース、ツリー、ベルなどがクラスに展示されています。
- ⑤ 子どものけんかについては、職員はできるだけ当事者同士で解決できるように見守っています。個々の性格を把握し、説明をしたりして、お互いの気持ちを受け入れ納得できるように、仲立ちをすることもあります。異年齢の交流は、行事などの時は異年齢の「なかよし3人組」での活動を中心としています。訪問時には「みんないっしょのかい」で歌をテーマに書いた絵に折り紙を貼り付けた（忍者・くじらチーム）と（さめ・ひよこチーム）の作品が掲示されていました。職員には公平な態度や肯定的な暖かい言葉を使って子どもたちに接するようにしています。
- ⑥ 園庭には、鉄棒、すべり台など全身を使って遊べる遊具があります。子どもたちは日常的に近隣の公園に散歩に出かけています。戸外に出かけるときは首を覆う帽子を着用し、園庭や、夏場の水遊びには遮光ネットを張り、プールの際には保護者の要望があればラッシュガードを着用して紫外線対策を講じています。アレルギーや虫刺され対策として医師の指示があれば薬の塗布も個別に行っています。0歳児の部屋にはソフトマットで高低さをつけバランス感覚をとれるようにしています。広い廊下を5歳児が雑巾がけをして体を支える筋力を養ったり、リズム感と balan

感覚を発達させるケンケンパあそびのできる遊具を使用するなど、子どもの発達に合わせて運動能力を高められるような遊びを実施しています。子どもの体調に応じて室内で静かに遊ぶ、ままごと、パズルなどをして過ごす配慮をしています。

Ⅱ-1 保育内容【生活】



- ① 年齢に応じて、子どもたちは配膳下膳を行っていますが、基本的には「自分で食べられる量」を調整して、器によそってもらうことで、自然に完食することを目指しています。毎月1回世界の料理を提供していますが、国によって大きく異なるお食事の特色を知ってもらうことができます。世界地図をみて、多くの国があること、日本がどこにあるかもわかっているようです。アレルギーへの対策は、医師の「除去食申請に対する主治医意見書」に従い、かつマニュアルに沿って、保育士と厨房が対策を行っています。食事の提供では、アレルギーフリー食品を使い一人でも多くの子どもが同じ食事をできるように工夫しています。
- ② 毎日の食事は子どもが食べたい量をよそってもらい、完食できたという気持ちを子どもが持てるように配慮しています。栄養士・調理師は子どもたちの食事の様子を見るように心がけ、毎月、各クラスの保育士からも子どもたち喫食状況を聞き、残食が多かった時の食材の切り方、固さ、味付けなどを参考に次の献立に役立てています。行事食では、行事の内容・時期に関連して、献立にも工夫し特別感を演出しています。誕生月の子どもの食事には、お祝いの旗が立っています。
- ③ 調理担当・栄養士が、毎月給食だよりを発行しています。旬の食材の紹介や季節に合った調理のポイントを記載しています。評判が良いメニューのレシピ紹介もしています。毎年6月には、給食の試食会を全クラスで行って保護者の意見要望もお聞きしています。
- ④ 幼児クラスには、休息の大切さを話し眠くなくても横になって静かに過ごすようにしています。乳児クラスには、心地よい眠りにつけるよう、子守唄を歌ったり、体をさすっています。SIDSチェックはマニュアルに沿って定められた時間内に定められた点検の実行を実行しています。

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理【健康管理】



- ① 看護師はフリーの立場で配置されており、各クラスに入り園児とのかかわりを持つよう心がけています。園児の健康管理と怪我の手当てなどにも適切な対応ができる状況を作っています。毎朝全クラスを見て回り、登園時の引継ぎ事項(前日にあった出来事や怪我の等の状況)を踏まえて、園児の健康状況を確認しています。
- ② 医師の健康診断は年2回行われ、診断の記録が保護者に連絡しています。保護者との間では健康手帳があり、毎月の身長・体重が記録されて往復して確認しています。歯科健診も年2回行われています。結果は「歯科健診結果のお知らせ」を作成して保護者にもお知らせしています。また歯科健診時には赤染をして磨き残しの点検も行って、子どもたちに歯の大切さを知らせています。健診結果のフォローは、クラス担任が行っていますが、“園業務支援システム”のソフトを利用して子どもたちの健康・成長の記録や疾病・怪我の状況も管理しています。
- ③ 感染症の発生状況等は迅速に捉えて、園内で発表して注意を促しています。また、園児の中で感染症が出た場合、直ちに「お知らせ」を作成して、病名と発症人数を掲示(玄関・クラスなどに)して注意を呼び掛けています。ただし、発生したクラス、発症した子どもの氏名は伏せています。全クラスで手洗い・うがいなどの対策をより徹底するようにしています。今年度は手洗いの後に試薬とブラックライトを使い洗い残しのチェックを行いました。看護師をはじめ、保育士の細やかな心掛けにより、感染症の防止につながっています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理【衛生管理】



- ① 衛生管理についてはマニュアルがあり、職員が参加して定期的に見直しが行われています。マニュアルに従って清掃が適切に行われているか「連絡ノート」に記載して、午前の担当者と午後の担当者間で引き継がれています。連絡ノートは1冊ですが、清掃場所（トイレ、外回り、園庭、玄関、休憩室）によって区分されています。ノートには、「きちっと手配できたところ」、「ちょっと気になっているところ」などを、文章で引き継ぎ、次の担当者に点検と協力をお願いしています。おもちゃの清掃・消毒、破損状況等は、朝夕、各クラスの担任が行っています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理【安全管理】



- ① 緊急メール配信システムを利用する体制ができています。避難訓練は毎月行われています。緊急時の職員連絡網、緊急時病院連絡網も事務室に完備しています。緊急時の園児引き渡しについても、「緊急時連絡カード兼園児引き取り者届け出書」が用意されており、園児の確実な引き渡しも確認できる体制があります。9月1日には実際に引き渡しまで訓練を行い、保護者のサインも記録に残されていました。また、園玄関にはAEDも備え付けられ、職員は救命講習も行っています。
- ② 事故や怪我が発生した時には、パソコンに記録を残し、1年を振り返り改善対策を検討しています。これまでに発生した事故報告が作成されており、発生時間、場所、事故状況を明確に記録し、さらに分析を行い対策が講じられています。事故報告までには至らないヒヤリハットは、クラス保育日誌の特記事項に記録されています。ヒヤリハットはパソコンにもすべて記録されて、その後の安全管理に活かされています。
- ③ 園の門扉は暗証番号で解錠する電子錠を設置しています。暗証番号は毎年変更しています。不審者対応訓練も行われていますが、子どもたちを怖がらせないで、安全に誘導するための対策を議論しています。カーテンを閉めるべきか、否かで、安全優先と外部状況把握の上で、職員間での検討課題となっている状況です。

II-3 人権の尊重



- ① 横浜市の職員が自園で人権についての講座を実施し職員が参加しています。口調や言葉使いなどについては、気づいた職員や園長、主任で注意し合っています。職員会議でも気がついたときに話し合いをしています。子どもの不適切な行為を注意する時なども、否定するだけでなく、気持ちに寄り添いながら子どもが納得するようにして、良い事と悪い事の区別をできるように支援しています。
- ② 保育室内には子どもがほっとできる場所、気分転換が出来る場所があります。子育て支援室や、事務室、廊下など保育士と一対一で話しができる場所があります。乳児のシャワー室にはシャワーカーテンがありプライバシーに配慮しています。
- ③ 個人情報について、ボランティアや実習生にも受け入れ時にマニュアルに沿って確認を取っています。保護者には、「個人情報保護法」として個人情報の取り扱いについて説明し了解を得ています。パンフレット、ホームページへの写真掲載については保護者の同意を得てから掲載する旨を明記しています。職員は、就業規則、服務規程に記載されている個人情報の取り扱いや守秘義務の重要性について周知しています。連絡帳なども取り扱いに注意しています。個人情報が含まれる児童票などの書類は施錠できる事務室のロッカーに保管しています。

- ④ 園児の名簿は入園順や生年月日順で記載しています。遊びの中での役決めも、男女では決めずに好きな役を選ぶようにしています。性別にとらわれずに個性を尊重しています。職員同士では、人権の研修を受けると共に、性差への先入観を持たずに男女の役割りを固定化せず、さまざまな家庭のあり方を理解して、子どもにかかわるよう話し合っています。

Ⅱ-4 保護者との交流・連携



- ① パンフレット、入園のしおりには、社会福祉法人あらぐさ会保育理念を前提に、園としての保育目標と保育内容を分かりやすく掲載し、入園説明会、クラス懇談会の際には必ず詳細に話をし、周知を図っています。保護者会・同役員会に出席した時の意見交換でも、基本理念・基本方針と関連付けて説明することをご理解を頂くようにしています。
- ② お迎え時に保護者と顔を合わせる保育士が、申し送り票を受けて報告できるよう工夫しています。希望による個別の相談には、園長または主任が対応しています。個別に相談を受けた場合には、児童票ファイルに綴りこまれたメモ（相談を受け、お応えした内容などを記入する専用の用紙）に、日付と相談内容、対応方法を記録し、相談を受けた保育士がサインし記録を残しています。記録は時系列を追って記載されており、一人の子どもに関してどんな動きがあり、どんな方法で解決したかを読み取ることができます。
- ③ 保護者会、役員会等には会議部屋、印刷機なども提供し、必要があれば園長が積極的に参加しています。保護者会活動に対しても、写真の提供など要望があれば全面的に協力しています。11月には保護者会主催行事として「バルーンアート鑑賞会」が開催されました。園の民営移管に伴い横浜市も交えての三者協議が開催され徹底した話し合いが行われ、運営が進んできました。現在も保護者会と園の二者協議が行われ連携が図られています。

Ⅲ 地域支援機能

Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供



- ① 地域コミュニティセンター「子育て連絡会」に出席し、センターが開催する地域運動「みんな友達つながろう」「フェスティバル会」など積極的に参加しています。センター開催「赤ちゃん教室」にも参加しています。港南区地域子育て支援拠点（市、民生委員と近隣保育園参加）にも会員として年4回ほど行事に参加し、地域ニーズの把握に努めています。
- ② 地域の子育て支援ニーズの把握に向けて対策を講じています。港南区のネットワーク専任保育士とも連携したり、園として地域の子育て支援を目標に一時保育の提供にも取り組み、園庭開放、育児相談、園としての育児講座の開催、園見学者へのPR強化などによってニーズの把握に取り組んでいます。

Ⅲ-2 保育園の専門性を活かした相談機能



- ① 園の玄関に、地域に向けての掲示板があり情報提供を行っています。園内にも、港南区マップをはじめ、関連する行事などのパンフレット（港南区こども家庭支援課、港南区地域子育て支援拠点「はっち」等のパンフレットなど）を置いて参加を呼び掛けています。これらの会には園も参加したり、講師を派遣したりしています。園としての独自の情報発信としては、園庭開放・交流保育・育児講座“あそびにきてね”や、園児の祖父母をお招きして“お月見の会”を開催し、地域の方々とのふれあいを行っています。
- ② 育児相談は随時受け付けています。園の掲示板と園内の情報提供コーナーは、相談内容に応じて関係機関のパンフレットなどを揃えて保護者に情報提供しています。主な機関としては、港南区こども家庭支援課、横浜市港南スポーツセンター、港南区地域子育て支援拠点「はっち」、などの情報を提供しています。

IV 開かれた運営

IV-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ



- ① 港南区役所の支援を受け、地域の長寿会・公園愛護会と園とで公園にひまわりを植える取り組みを行いました。4～5歳児が、地元の小学校を訪問して小学生との交流を行っています。中学生の職業体験の受け入れや、園長による職業講話の実施、園に隣接しているコミュニティハウスが開催する文化祭に子どもたちの作品展示をしてもらうなど、地域交流を行っています。また休園日には園の駐車場を地域へ開放しています。
- ② 近隣の保育園の5歳児で「つながろう年長交流」として就学前の子どもたちの交流を行っています。1～2歳児は、公園にあつまる乳児交流も行われています。地域のコミュニティセンターが主催しての小・中学校の校庭で遊ぶ会が開催され保育園としても参加して、子どもと地域の日常的な交流に参加しています。

IV-2 サービス内容等に関する情報提供



- ① 法人ホームページ内から園のページにアクセスでき、園の概要・保育内容・行事・保育園の一日などの情報が掲載されています。園の玄関外にも掲示板を設置し、園の情報を地域の方々に向けて公開しています。他にも港南区役所、子育て支援拠点にもパンフレット等を置かせてもらっています。
- ② 園見学は随時受け付けています。見学は出来る限り希望日に対応し、説明は園長または主任が担当しパンフレットを中心にして案内をしています。同時に園が行っている育児相談など、子育て地域支援についても情報をお伝えしています。

IV-3 ボランティア・実習の受け入れ



- ① 笹下中学校から福祉厚生委員会の学生をボランティアとして受け入れました。ボランティアの受け入れはマニュアルに沿って主任が担当しています。個人情報の取り扱いなども含めた約束事の説明をしています。ボランティア終了後には意見や感想をもらい、職員間で共有し次に活かすことにしています。
- ② 実習生受け入れマニュアルに沿って実習生の受入れを行っています。主任が担当者として対応し、養成校や学年により設定した目的に合わせて実習を行っています。受け入れについては、職員会議でも報告し、保護者へも「お知らせ」を配布して通知しています。実習終了後には、園長、主任も参加して意見交換を行っています。

V 人材育成・援助技術の向上

V-1 職員の人材育成



- ① 保育士として求められるキャリアが年単位で明確に示されています。最初の5年で、保育所の仕事のルーティンを身に付け、保育実技・技術の習得、次の5年で幼児部のクラスリーダー、年間のクラス運営、指導計画の作成など、10～15年で、乳児部のクラスリーダー、一定の集団リーダー、保護者支援、地域子育て支援、相談業務の習得を目標に掲げ、キャリアアップのための研修受講を積極的に推進しています。
- ② 各クラスには複数の担任を配置し、新任にはOJTを実施しています。同時に、各職員は過去に受講した研修を洗い出し、新年度の目標・課題に照らして希望の研修を提出し、園はこの希望に沿って研修を受けられるよう配慮しています。過去に受講した研修は、9種類に区分（実技講習・人権等・障害保育・アレルギー・衛生管理・家庭支援・保育理論・接続期・リーダー研修）して受講回数を図式化し、不足している研修を明確にし偏りなく研修が受講できるようにしています。

V-2 職員の技術の向上



- ① 保育士の保育技術の自己評価は月案、年間指導計画などの自己評価欄に記入します。指導計画は毎月指導計画会議でクラスごとの子どもの成長や発達、子どもの変化や行動などの保育目標の達成状況、ねらいとの比較についてを話し合い、翌月の目標や計画を見直しています。園内外の良い事例をもとに保育内容を改善しています。現在、園は今まで引き継いできた公立保育園の良い点を大切にすると共に、園独自の保育を取り入れ始めている段階です。日常の保育の振り返りを行う一つとして、よこはま港南地域療育センターの巡回指導員から気になる子どもについての保育の評価や指導を受けて、運動スキルに関する講師を招き、子どものサポートの仕方などについて指導を受けています。
- ② 保育課程に基づいて作成された指導計画に保育方針が反映されるように保育を実施し、その実施に対して記載された自己評価、反省などは毎月の指導計画会議で報告し話し合わせ、改善をして次の計画に反映させています。指導計画とは別に職員一人一人の評価については、「利用者（子ども本人）の尊重」「サービスの実施内容」「地域支援機能」「開かれた運営」「人材育成・援助技術の向上」「運営管理」から71項目のチェックシートを実施し、その結果をホームページに公表しています。そして、これらを集約させたものを園の自己評価としています。

V-3 職員のモチベーションの維持



- ① 園の運営規程に経験や能力に応じた「事務分掌」があり、「保育士としてのキャリアを考える」（キャリアシート）に在席年数に応じた保育士として求められる期待水準が明文化されています。キャリアシートには現在の自分のキャリアに必要な9つの研修の受講回数がレーダーチャートでわかりやすく示されています。そして、自分の状況をチャートに記入し、客観的に自分の状況を見て、新年度の目標、課題、必要を記載して園長と面接をします。
- ② 日常の業務は各職員に権限が委譲されています。外部とのやり取り、事故や緊急時の対応は園長、主任に判断を仰ぐことが徹底されています。園長は、面接や職員会議、日常的な会話などから、職員からの改善提案や意見、職員意向調査を実施しています。そして、年度終了時の面接で目標の検証と評価を行っています。今回、月間指導計画に記載するにあたって、「養護と教育」の記載欄の記載内容について、どのようにすれば欄に対する記載が的確なものになるか、職員からの意見を聞き取り、「養護と教育」を「配慮と内容」に変更しています。

VI 経営管理

VI-1 経営における社会的責任



- ① 園の運営規程、就業規則の服務に、人権擁護、守秘義務、個人情報保護、法令遵守などが明記され、職員に周知しています。実習生、ボランティアにも守秘義務などを周知しています。園の事業報告など運営状況は、法人のホームページに公表されている他、園に常備しています。アレルギー誤食、事故、虐待など他の施設での不正、不適切な事例を職員に回覧し情報共有しています。職員会議で園の理念とともに個人情報保護や虐待防止に対する職員の意識啓発、マニュアルの確認などを行っています。
- ② 裏紙利用の推進や、ダンボールや牛乳パックや廃材を製作に利用して、リサイクルに取り組んでいます。夏期にはゴーヤなどのグリーンカーテンを実施しています。身の周りにある自然環境や資源に興味を持つ・限りある資源を大切に使う事を知るといふねらいのもとに「環境教育指導計画」が作成され、環境への取り組みが明文化されています。この中の活動は、港南区資源循環局の協力による、「かるがも教室」「紙すき体験」として環境教育を行っています。

VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



- ① 園の理念、運営規定、保育目標を玄関付近に掲示し、職員や保護者へ周知しています。今回法人50周年の記念誌作成、式典に職員がスタッフとして参加した事で、法人の成り立ちからより深く、基本理念について十分理解が出来る機会を持ちました。また理念は園のホームページ、園のパンフレット、園のしおりにも記載し、入園説明会などで保護者にも周知し、その時に職員も基本理念、運営方針を再確認しています。園長面接の時には職員が理念、方針の立場で保育実践を行っているか、自己評価などを通して確認しています。
- ② 人事、施設改修、行事など重要事項については、基本的には園便り、クラス便り、また法人のあらぐさ会ニュースなどに掲載して周知しています。園庭にある固定遊具を将来的に移動撤去したいなどの話については、保護者にも、経緯、内容などが周知されています。また、必要に応じてアンケートを実施して、保護者全体懇談会、クラス懇談会などで意見交換がされています。
- ③ 法人全体として、主任クラスの育成がされクラスリーダーなどの中堅職員は主任研修に積極的に参加していますが、園は新設2年目で主任クラスの育成には至っていません。現在、主任は担任を持たずフリーになっていて、園内を巡回し、クラスの状況や保育士の保育内容や対応を把握しています。子どもへの話し方や、保育士の指導で気になる事があるときなどは、主任、主任補佐が必要に応じて具体的に援助してOJTで保育技術を教えています。また、主任はシフト管理をし、職員に無理のないような体制を整えています。さらに、声かけを行って職員の体調管理に配慮しています。看護師がメンタルヘルスの研修を受講して、全職員のストレスチェックを行える資格をもっています。

VI-3 効率的な運営



- ① 園では、事業運営に関する情報、保育新指針、待機児童数の動態、保育士確保の動向、地域子育て支援の状況などを区や、外部の保育団体から情報を収集し分析しています。さらに、法人の社労士、会計士からも新しい情報を得る事ができます。職員会議では指導計画会議が行われ、これらの情報から考えられる園の課題や改善点をみつめています。さらに、職員会議だけではなく、リーダー会議を行い改善、周知を図り、今後の事業展開について検討し、保育所全体で取り組んでいます。

- ② 移管後5年間は大きく運営の変更をすることができませんが、園舎の修繕計画（3年後、屋根の塗装、外壁修繕の実施、5年後、園舎立替プランの作成など計画を策定）があります。内部的には職制の制定によるラインアンドスタッフの形成、日々の業務のIT化、園庭の遊具の撤去、導入の計画を実施しています。新設園として職員の価値観をすり合わせ、園のオリジナリティーを一人一人の職員の協力で作り上げ、保護者から信頼を得られるように職員会議などで話し合い意識向上を図っています。運営に関して社労士、会計士などの専門家からのアドバイスや指摘を受ける機会があり、運営に活かしています。

利用者本人調査

調査対象

園全体の在籍数：

0歳児クラス：6名	1歳児クラス：12名	2歳児クラス：18名
3歳児クラス：20名	4歳児クラス：24名	5歳児クラス：26名

調査概要

《0歳児クラス》

(午前遊び)

0歳児の部屋では、子どもが保育士のそばに座ったり、膝にのったり子どもたちはボールや、自分の好きな玩具で楽しそうに、ニコニコしながら遊んでいます。部屋に入ると子どもたちは、一斉に「誰だろう」という表情で保育士の近くに走っていきました。そして、保育士のそばからこちらを見えています。「おはようございます」と声をかけると、保育士が「みんなも、おはようございます」と挨拶を促します。子どもたちは、調査員がいる間保育士のそばや、後ろ、体に手をのばして触っています。その様子は、先生がいれば大丈夫と言っているようで、保育士と子どもたちの信頼関係が見られました。

(朝のおやつ)

「いただきます」をして始めます。ミルクのコップが自分の席にくと、嬉しそうです。椅子は、背中がしっかり支えられる箱型のものです。子どもがおやつを上にあげて嬉しそうに見ています。保育士が「ごくごく、ゴクンね」と声をかけています。おやつが終わると自分でお皿を返していました。アレルギーのある子どもには保育士がついて、他の子どものおやつと間違えないようしています。

(排泄)

トイレの前で、おむつを取り替えています。おむつシートはその子ども専用のもので衛生に配慮しています。保育士は、子どもに「とりかえようね」「きれい、きれい」などと言葉をかけて子どもに笑いかけながらおむつを取り替えています。おむつを取り替えた後は、子どもを抱っこしてスキンシップをとっています。

(午睡)

保育士がそばで、背中を優しくトントンしたり、足をさすったり、寝付けない子どもの手を握ったりして子どもが安心してゆっくり休めるようにしています。ブレスチェックは5分おきに子どもの顔に手をあてて確認をしています。泣いて眠れない子どもは保育士が抱っこをして、「～だね」「～かな

あ」と優しく声をかけながら、園内を歩くなどしてリラックスさせています。

(午後遊び)

保育室の前を通ると、ボールが転がってきました。ボールを取りにきた子どもがいたので、「どうぞ」といって足元に転がすと、受け取ったボールをこちらに転がしてきました。もう一度転がすと、声を出して笑いながらも一度行い、保育士が「よかったね、たのしいね」と声をかけていると、他の子どもも自分のボールをもってきました。「コロコロするよ」と言って足元に転がすと追いかけていきます。さきほどの子どもも順番を待って自分のボールを持ってきます。一回で上手にボールを取れると「すごい、上手ね、よかったね、できたね」と保育士が声をかけると、子どもはとても嬉しそうにボールを抱きしめていました。

《1 歳児クラス》

(午前遊び)

自分で～をしたいという意欲を持って遊びを選択している様子がみられました。本を読んでいる子どもは自分の好きなタイプの本があるようで、はっきりとした色合いの絵が描かれた本を指差しながらページをめくっています。ブロックを携帯電話に見立てて「モシモシ」と言いながら調査員に近づいてきたので、「はい、お名前をおしえてください」というと、「～よ」と言って、違うブロックを持ってきて渡してくれました。電話ごっこをしていると、他の子どもたちも自分の好きな色、大きさのブロックを持ってきて子ども同士でも電話ごっこを始めました。お人形を背中に背負ってお友だちと、保育士で遊んでいる子どももいて、思い思いにコーナーで遊びこんでいる姿が見られました。

(食事)

食事の時は、保育士が子どものそばでサポートをしています。子どもは、自分の食べたいものを指したり、自分の気持ちを保育士に伝えようとしている姿も見られました。保育士は、子どもが上手に食べたりするときに、褒める言葉をかけています。そして、子どもの気持ちを汲み取り「～かな」「～したいねえ」「こうやったほうがいいかな」などの言葉がけをして、子どもとコミュニケーションを取っています。

(排泄)

午睡明け、トイレに行ってから、自分で着替えをしたい子ども、保育士に着替えを手伝ってもらおう子ども、ここでも自分でやりたい、という子どもの様子が見られました。上手にパンツがはけない子どもがなんとなく、もじもじして動きずらそうにしています。保育士が、「～ちゃん、オパンツがちゃんとなっていないのかな」と声をかけると、自分で一生懸命なおしています。保育士は、子どもが、～して欲しいというときには簡単なことでもお手伝いをしますが、子どもが自分でやってみたい、と思う気持ちを尊重して見守っています。そして、タイミングをみてさりげなく話をしながら衣服の乱れを直しています。

(午睡)

子どものそばで保育士が、体を優しくさすったり、小さな声でお話すると、子どもが甘えるしぐさをみせています。保育士にぴたっと寄り添って寝ている子ども見られます。部屋は子どもの顔が見える程度の明るさで、10分おきにブレスチェックを行い、子どもの寝ている姿勢にも気をつけています。しばらくしてから様子を見に行くと、すやすやと皆、寝ているようでした。中には、リラックスしているのか、大きく手を広げて寝ている子どももいました。保育士は部屋の温度なども、子どもが安心して気持ちよく眠れるように配慮しています。

《2歳児クラス》

(食事)

食事の時に調査員も一緒に席に着きました。今日は、らいおん組さんと一緒に年賀状を出しに行ったことを話してくれました。「お散歩たのしかった？」と聞くと、散歩の話や、自分が好きな色など教えてくれました。たくさん歩いたことと、子どもたちに人気のカレーということもありドンドン食事がすすんでいます。「お代わりください」と子どもたちが言います。保育士は「はい、～ちゃん今日すごいね」と子どもが頑張っている事を認めて声をかけています。「ちょっと、眠くなった」という子どももいました。酢の物にシラスが入っていました。子どもが「魚がいる」というと「これは、シラスというお魚、ゆっくりたべようね」と保育士が説明をしています。子どもたちの食べる様子を見て、「～ちゃん、体はまっすぐだよ」などと食事の時のお行儀について声かけをしています。食事の最後はお茶を飲んでから、椅子に座って鏡をみて自分で歯磨きをし、その後保育士に仕上げ磨きをしてもらっています。

(午睡)

午睡前、パジャマに着替えて本の読み聞かせをしています。読み聞かせが終わると、保育士が電気を消します。子どもたちは一斉にお布団のところに行き、布団の上でピョンピョンしたり、お友だちと話しをしたり楽しそうにしています。お布団に入ってから、友だち同士で顔を見合わせて笑ったり楽しそうです。保育士がなかなか寝付けない子どものそばで、体を優しくさすっています。しばらくすると子どもは眠りにつきました。

(午睡明け、排泄)

電気がつくと子どもたちはすっきりと起きてきました。「おしっこ行こう」と保育士が声をかけると、自分でズボン、下着を脱いでトイレに行く子どももいます。トレーニングパンツがぬれていない子がいました。保育士が「かっこいい」と声をかけると、嬉しそうに自分でズボンをはいていました。保育士は活動の場面場面や、子どもの表情、様子でトイレへの声かけをしていますが、無理にトイレに連れて行く事はしていません。

《3 歳児クラス》

(お散歩)

それでは散歩に出かけましょう、と先生から声が掛かりました。自分で上着を着ています。靴下を持って靴箱に向かいました。靴を履き終わった子どもが、自然に並び始めました。全員揃うのを待つ間も楽しそうに歌を歌っています。公園への道のりでは、工事現場の大きなクレーンに気づいた子どもたちが歓声を上げました。ヘルメットをかぶって交通整理をしている警備員さんもニコニコして、横断歩道を渡る手伝いをしてくれました。保育士から「ちょっと探検をしましょう」と声が掛かり、いつもと違うルートに子どもたちも興味津々の様子です。小道を抜けると、郵便局が見えてきました。ポストを開けて集配をしている郵便局員さんがいました。郵便局員さんは大きな袋を開けて、ポストから集めた郵便物を見せてくれました。子どもたちは「ありがとう」と大きな声でお礼を伝えています。

公園に到着しました。保育士から「今日は探検もしたので公園で遊ぶ時間は少しですよ」とお話があり、公園に入りました。公園内では急坂を下ったり、生け垣の下をくぐって探検をしたり、元気に走り回っていました。帰り道では、救急車が車庫に入るところを見たり、大きな消防車が走り始め、運転手さんから手を振ってもらい、皆嬉しそうです。保育園まであと少し、急な上り坂です。一人の子どもが石につまずいて転んでしまいました。保育士が近づき、「先生が痛くないようにしてあげるよ」と列の前の方に抱えて運ぶと、痛みも消えたようですぐ笑顔になりました。

(食事)

食事の準備が始まりました。保育士が、今日の献立のカレーを盛り付けて台の上に並べています。隣には野菜の和え物が並んでいます。準備ができたところで保育士から、「それではお食事を始めましょう」と声が掛かりました。グループごとに、子どもが食事を取りに向かいます。盛り付けてあるお皿の中から、自分が食べられる量のお皿を選んで、自分の席に運びます。

全員が運び終わるまでは、今日の散歩のお話が続いていました。全員席に戻って準備ができたところでみんなで「いただきます」のご挨拶で食べ始めました。お散歩でたくさん歩きお腹もすいていた上に、人気なカレーということもあり、みんな美味しそうに食事が進んでいました。

《4 歳児クラス》

(食事)

食事の準備が始まりました。保育士が料理を盛り付けたお皿を、各自で席まで運びます。4つのグループで順番が決まっていて、とてもスムーズに準備が進んでいます。食事は自分が食べられる量のお皿を選んでいきます。

栄養士から「今日は、世界の料理の日です。」と世界地図を掲げてお話がありました。今日のメニューはロシア料理のボルシチで、赤い色はビーツを使っていると説明がありました。「ちょっと触ってみましょう。」と子どもたちは実際に触れてみます。「やわらかいね」「赤いんだね」と初めて見る野菜に興味を持っている様子です。三人のお当番さんが料理の紹介をして、みんなで「いただきます」とお食事が始まりました。パンは米粉を使ったとても柔らかいパンで、アレルギーフリーの食事提供が実践されていました。調査員の隣で食事をした子どもは、これから生まれてくる弟か妹の話を楽しそうにしてくれました。前に座っていたおとなしい女の子には「〇〇ちゃんは緊張しているんだよ」と別のお友だちが説明してくれました。お友だち思いの仲の良い様子が分かりました。

《5 歳児クラス》

(食事)

お当番さんが、給食室からパン、副菜などを運んできます。クラスでは、子どもたちが順番にお当番さんにおかずをよそってもらっています。食事の歌と「いただきます」の挨拶が終わると、保育士が「今日は、～ちゃんの誕生日です、お祝いをしましょう」と言いました。お誕生日の子どもの食事には、旗が立っていて、特別な日の演出がされています。みんなで、お誕生日の歌を歌ってから、給食が始まりました。今日のメニューの中にボルシチがあります。栄養士がボルシチの材料のビーツの水煮を、テーブルごとに見せに来てくれました。「触ってみましょう」という栄養士の声に子どもたちは「柔らかい」「むによむによしてる」と話したり、皿の中からビーツをみつけて「これだよ」と見せてくれました。今日は駅伝の練習を午前中にしたそうです。子どもが「寒かったけれど、だんだん走っていると暑くなってくるの」など色々な話をしてくれました。保育士は子どもたちの食事の様子を見ながら、「あら、今日は頑張っているね、おいしいね」など子どもの意欲を認め褒める声かけをしていました。

(食後、歯磨き午睡まで)

食事の途中で、「りす組さんの明かりが消えたから静かにしましょう」と女の子が言いました。近くの子どもが「りす組さんは、小さいから早くお昼寝するから、明かりが消えたら、静かにしないと眠れないから」と説明してくれました。食事が終わると、一人一人鏡を見ながら歯磨きをしています。午睡の前に、保育士が紙芝居をしています。保育士の周りでみんな真剣に話しに聞き入っています。「じゃあ、寝ましょう」という保育士の声で、子どもたちはトイレに急いだり、布団に入ったり、午睡に入ります。部屋の電気が消えしばらくしてから、そっと様子を見に行くともぞもぞと動いていたり、お友だちと小さな声でお話している子もいたようですが、体を休める時間ということで静かに横になっていました。

家族アンケート結果

アンケートの概要

1. 調査対象

利用者の全家族

2. 調査方法

アンケートは評価機関で準備をして保育園から配布してもらいました。回答は家族から郵送にて直接に評価機関に送っていただきました。

3. アンケート発送数等

発送数：	92 通	返送数：	32 通	回収率：	35%
クラス：	0歳児： 4 通	1歳児：	5 通	2歳児：	6 通
	3歳児： 5 通	4歳児：	7 通	5歳児：	4 通

4. 全体をとおして

保育園利用の全家族にアンケートを行い、回収率は35%に留まりました。

家族からの「保育園を総合的に評価した」満足度は「満足」が41%であり、「どちらかといえば満足」を含めると100%となっています。

個別でも、ほとんどの項目において「どちらかといえば満足」を含めると高い満足度になっています。特に「満足」の特出した項目が無い中で、「園のおもちゃや教材について」「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについて」は「満足」が63%となっています。また、「クラスの活動や遊びについて」「園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供について」も「満足」が59%となっています。

その一方で、「満足」が低い項目としては、「年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているか」「施設設備」があげられ、「満足」は16%にとどまっています。また、「不満」が多い項目として、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」があげられ、9%が「不満」と回答しています。「年間の保育や行事についての説明」「年間の保育や行事についての説明」「意見や要望への対応」も、回答者の6%が「不満」と答えています。

自由記入欄では、「いつも子どもと優しく関わって下さって嬉しいです。」「保育士さん方もいつも忙しい中で対応してくださり感謝しています。」など感謝の声があります。ほかには「入ろうと思えば部外者も入れそうなので少し不安を感じます。」「英語でのリトミックや書道、茶道など民間ならではの特色があると良いと思う。」などの意見もあります。

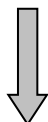
「あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存知ですか」では、「よく知っている」は6%です。「まあ知っている」を含めた回答者の100%が保育目標・保育方針に賛同しています（「まあ賛同できる」を含む）。保育目標など園の考えを周知して「賛同できる」保護者を増やして、保護者と保育園のお互いが協力し合って保育の質の向上につながることを期待されます。

アンケート結果

■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1 あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存知ですか

1 よく知っている	3 どちらともいえない	4 あまり知らない
2 まあ知っている		5 まったく知らない



1	2	3	4	5	無回答
6.3%	40.6%	9.4%	31.3%	9.4%	3.1%

付問1 【「1 よく知っている」または「2 まあ知っている」とお答えの方】

あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。

1 賛同できる	3 どちらともいえない	4 あまり賛同できない
2 まあ賛同できる		5 賛同できない

1	2	3	4	5	無回答
73.3%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

■ 保育園のサービス内容について

問2 お子さんが入園する時の状況について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	34.4%	34.4%	0.0%	0.0%	25.0%	6.3%
その他: 見学していない						
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	40.6%	46.9%	3.1%	0.0%	3.1%	6.3%
その他: 見学していない						
園の目標や方針についての説明には	28.1%	65.6%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%
その他:						
お子さんの生育歴などを聞く対応には	50.0%	37.5%	3.1%	0.0%	3.1%	6.3%
その他: 面接していない						
保育園での一日の過ごし方についての説明は	34.4%	53.1%	3.1%	3.1%	0.0%	6.3%
その他:						
入園後に食い違いがなかったかなどもも含め、費用やきまりに関する説明については	34.4%	40.6%	9.4%	3.1%	6.3%	6.3%
その他:						

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	18.8%	65.6%	6.3%	6.3%	0.0%	3.1%
	その他:					
年間の保育や行事についての説明	15.6%	46.9%	12.5%	6.3%	18.8%	0.0%
	その他:1年目なのでわからない					

問4 日常の保育内容について

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	59.4%	40.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	56.3%	37.5%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	62.5%	28.1%	9.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	53.1%	37.5%	9.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	56.3%	40.6%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	40.6%	43.8%	6.3%	0.0%	9.4%	0.0%
	その他:わからない					

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	53.1%	43.8%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	46.9%	50.0%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	53.1%	37.5%	3.1%	3.1%	3.1%	0.0%
	その他:よく知らない					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	50.0%	37.5%	6.3%	3.1%	3.1%	0.0%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	34.4%	37.5%	3.1%	3.1%	21.9%	0.0%
	その他:まだ始めている、わからない、知らない					
お子さんの体調への気配りについては	46.9%	46.9%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	37.5%	46.9%	12.5%	3.1%	0.0%	0.0%
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策などについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	15.6%	53.1%	25.0%	3.1%	3.1%	0.0%
	その他:よくわからない					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	34.4%	59.4%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	18.8%	43.8%	25.0%	9.4%	3.1%	0.0%
	その他:わからない					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	28.1%	65.6%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	37.5%	50.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	59.4%	40.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	53.1%	40.6%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	28.1%	43.8%	25.0%	0.0%	3.1%	0.0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	31.3%	56.3%	9.4%	0.0%	3.1%	0.0%
	その他:わからない					
保護者からの相談事への対応には	31.3%	65.6%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	37.5%	46.9%	0.0%	3.1%	12.5%	0.0%
	その他:頼んだことがない、利用がない					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	53.1%	46.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他:						
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他:						
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	40.6%	37.5%	0.0%	0.0%	21.9%	0.0%
その他:よくわからない、該当しないので、知らない						
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	50.0%	46.9%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%
その他:						
意見や要望への対応については	34.4%	53.1%	6.3%	6.3%	0.0%	0.0%
その他:						

問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足しているか

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	40.6%	59.4%	0.0%	0.0%	0.0%

事業者コメント

事業者名：社会福祉法人あらぐさ会 笹下保育園

横浜市からの移管を受け3年間が経過しましたが、新設園として、様々な試行錯誤の日々を過ごしてきました。保育者一人ひとりが保育を見つめ直し、保育の意味を問い直しながら、保育の「かたち」を作ってきました。いかにして保護者の信頼を得るか、地域とのネットワークをつくっていきけるのかという、大きな目の前の課題もありました。

まだまだ「笹下保育園らしさ」や、笹下スタンダードというには及びませんが、今回の受審での評価をもとに、中長期の方向性をまた模索していこうと考えます。

調査員の方には、園の状況を本当によく見ていただきました。散歩に行っていたり、一緒に給食を食べてもらい、子どもたちは大喜びでした。ありがとうございました。



株式会社フィールズ

〒251-0024 藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3F

TEL : 0466-29-9430 FAX : 0466-29-2323